

取締役副社長 統括本部長（財務担当役員）

山中 雅文

Profile

1978年株式会社三松、1988年株式会社トリイ（現・株式会社AOKIホールディングス）に入社、株式上場準備を担当し同社は1990年に名証2部上場。1995年当社入社。株式上場準備の責任者として、1999年9月に名証2部、2000年12月に東証1部への株式上場に貢献。その後、2004年に取締役財務部長、2006年6月には常務取締役としてコーポレート部門の責任者である統括本部長に就任、2012年に専務取締役、2016年に取締役副社長、一貫して統括本部長を務め、現在に至る。



CFO Message

潤沢な資金を成長投資と株主還元
適正に配分し、企業価値向上を実現します。

**3期連続の増収増益を達成し、24期連続の増配を実現しました。
2024年度も増収増益を見込んでいます。**

2023年度の業績については、売上高97,606百万円（前年度比9.9%増）、営業利益48,937百万円（前年度比11.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益32,906百万円（前年度比9.7%増）となり、3期連続の増収増益を達成できました。自己資本当期純利益率（ROE）も17.0%となり、経営指標としている15%以上の水準を達成できました。株主還元については、好調な業績を踏まえて1株当たり年間配当金を株式分割後基準で37.7円（配当性向55.1%）とし、24期連続の増配としました。

2024年度の業績は、売上高102,600百万円（前年度比5.1%増）、営業利益52,500百万円（前年度比7.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益36,000百万円（前年度比9.4%増）を見込んでいます。1株当たり年間配当金については、41円20銭と予想しています。

新たに「総還元性向80%以上」を設定し、さらなる株主還元の充実を図ります。

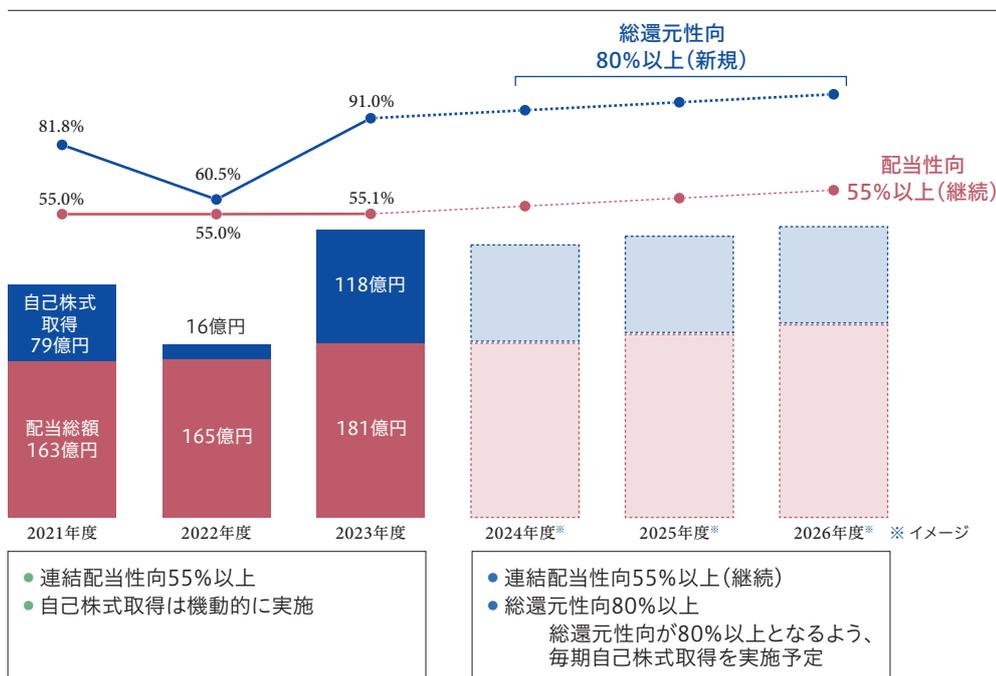
USSは、「持続的な成長を見据えた投資を着実に実施しながら、事業活動にともなうリスクを許容できる水準の株主資本を保持すること」を資本政策の基本方針としています。

株主還元方針として、これまでは「連結配当性向55%以上」を掲げており、自己株式の取得については、当社株式の市場環境、設備投資計画、キャッシュ・フローなどを鑑み機動的に実施することとしていました。しかしここ数年、増収増益を継続している中、資本効率の重要性についてもあらためて検討し、株主価値の向上を目指すうえで「総還元性向80%以上」(2024年度～2026年度)を目指すことを決定しました。「連結配当性向55%以上」も継続することから、毎年総還元性向において25%程度の自己株式の取得を計画していきます。取得の実施規模や時期などについては、決定次第、速やかに開示していきます。

また、総還元性向80%以上と設定したのは、株主還元の充実はもとより、資金使途を明確にすることが目的の一つです。私たちのビジネスでは、例えば当期純利益が350億円だとすると、80%を還元したとしても70億円がまだ残るわけです。その状態で、仮に100億円を投資したとしても、減価償却がありますから、現金は多少残ることになります。

つまり、計算上は現預金が今までよりも少し増えることになります。したがって、最低80%を還元したとしても、比較的大型の会場を新たに一つ建設する程度であれば、還元後の残った現預金でまかなえる範囲であり、現預金の総額としては大きな変化は生じない可能性が高いと想定しています。こうした検討の結果、総還元性向80%以上は確約できる数値として設定しました。

総還元性向／配当性向（3年間のイメージ）



新たなキャッシュアロケーション方針のもと、 潤沢な資金を成長投資と株主還元に適正に配分し 長期的な企業価値向上を実現していきます。

今後のキャッシュアロケーション方針としては、2024年度から2026年度の3か年累計で、営業キャッシュフロー1,200億円を想定し、「高い総還元性向を維持しつつ、中長期的な成長に必要な投資を実施」「2026年度までの3か年累計で、200億円以上の成長投資を実施」「M&Aや業務提携による出資などは別枠で検討」という3つを軸とします。

成長投資については、オートオークション事業に合計230億円程度を投資する予定です。このうち、2024年度から2025年度にかけて、出品台数の増加が著しく、立体駐車場を併設したオークション会場に新築建て替える横浜会場に80億円程度、2025年度は、西日本最大のオークション会場として、会場の新築建て替えや立体駐車場の増設を予定しているHAA神戸会場に100億円程度、2024年度から2026年度にかけて、オートオークション基幹システムに50億円程度投資する計画です。これら以外に、国内最大のオークション会場である東京会場では、2024年度にレーンを増設予定ですが、築20年が経過していることと、さらにオークション処理能力を拡張するため、2026年度以降に新築建て替えるを予定しています。これらの投資によって市場シェア50%の実現を確実なものとしていきます。リサイクル事業への投資については、今後の需要が期待されるアルミニウムや太陽光パネルをはじめとした資源リサイクル事業(株式会社アビツ)に、30億円の投資を予定しています。

株主還元については、「連結配当性向55%以上」「総還元性向80%以上」に照らして3か年で900億円程度となる見込みです。また、今後、大型のM&A案件が発生した場合でも、積み上げてきた現預金で十分まかなえる想定です。

こうしたキャッシュアロケーション方針により、中長期的な企業成長と株主価値向上を実現していきます。

取締役副社長 統括本部長 (財務担当役員)

山中 雅文

キャッシュアロケーション方針

2024年度-2026年度累計

